

1 単元名 3. わたしたちの生活と工業生産 第3小単元「工業生産を支える」

2 単元を貫くテーマ

調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べる活動を通して、我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりすることができるようにする。

3 単元について

① 教材について

本単元では、学習指導要領の内容（3）のア、イ、ウを扱う。わたしたちの暮らしの中には、先に学んだ農産物や水産物と同様に、実に多様な工業生産品があふれている。それらの中には、自動車や歯磨き粉といった大小の重化学工業品や、パンやハンカチ、漫画といった軽工業品と、子どもたちに身近なモノも多数ある。しかし、子どもたちはただ使っているだけで、どこで、だれが、何を材料にして、どのように製品をつくっているのか、そして自分たちの暮らしの中にどのように届いているのかを詳しくは知ってはいない。特に私たち鳥取県は近くに大きな工業地帯がなく、大工場と中小工場等のちがいを身近に感じる事が少ない。工業生産品は、「あれども見えず」をつくことのできる教材であり、子どもたちの考えを大きく揺さぶることのできる教材である。工業生産の学習をよい機会ととらえ、体感できなくても写真資料や図表等の資料から現状や傾向、課題をつかむことができる力を身に付けさせることができると考える。

小単元「工業生産を支える」では、日本の工場生産を支える中小工場や運輸の働きについて学習する。中小工場が持つ高い技術などは、具体的にどのようなものなのかについて問題意識を醸成し、動画などを活用して調べられるようにする。運輸の働きについては、トラックを中心に船、鉄道、飛行機など様々な運輸手段を事例として取り上げ、運輸の働きが工業生産を支えていることに気づかせるようにする。

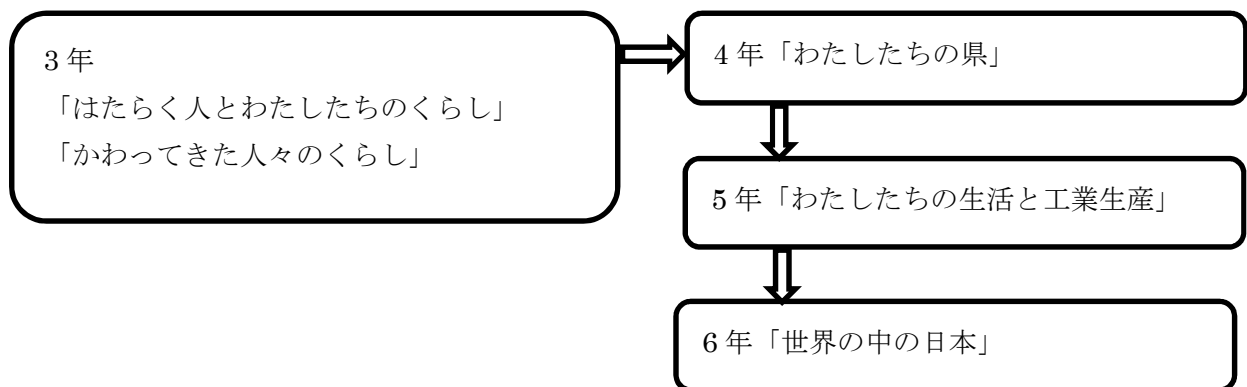
② 児童について

子どもたちは、5年生になって「国土」「地形・気候の特色と人々の暮らし」から社会科の学習を始め、「暮らしと食料生産」について力を入れて学習をした。そこでは、米づくりをはじめ、果実や野菜生産が盛んになる地理的要因や食べ物づくりに関わる人々の努力や工夫、抱える問題点について追究し、まとめる経験をした。その中で、第1次産業が衰退している現実に関心、その要因をわたしたちの暮らし方の変化や産業の形態の変化、外国との関係にまで考えを出し合っていた。水産業の学習においても、資料を見て多くの気づきや疑問を持つことができおり、資料を読み取る力がついてきている。また、地図帳や資料集を使うことも上手であり、教師から指示しなくても、問題解決に向けての道具として使う姿勢が育ってきている。ただ、自分の生活体験や調べたことをもとにして考えを持ち具体的な話し合いで学習を進める子がいる一方、事象に対して表面的な思いに留まり、事象のつながりを十分にとらえられない子どももいる。事象に対する思いの持ち方に差が依然としてある。また、学びを深める話し合いの段階では、意見をつなげて発表する姿は所々で見えるものの、論点がずれたり、意見が重ならなかつたりするという現状もある。

③ 単元構成について

第1小単元「工業生産と工業地域」では、工業製品を分類する活動を通して、その種類を具体的にとらえさせる。さらに、統計資料や地図などを活用して、日本の工業生産を概観し、工業の盛んな地域の特色を考えさせる。第2小単元「自動車を作る工業」では、自動車の組み立て工場の分布や生産額などから、愛知県豊田市の自動車の生産を主事例として、工業生産に携わる人々の工夫や努力を調べさせる。製造ラインの工夫や関連工場との連携に加え、自動車が消費者に届けられるまでの運輸の働きや、価格と費用、海外生産、消費者や社会のニーズに応えるための取り組みについてもとらえられるようにする。第3小単元「工業生産を支える」では、日本の工業生産を支えている中小工場の働きについて、福井県鯖江市など北陸工業地域の、物作りの伝統を生かした工業や、東京都大田区の高い技術を誇る数多くの中小工場など各地の工業生産を支える運輸の働きについて調べることで、日本の工業生産を支える様々な働きを考えさせる。第4小単元「これからの工業生産とわたしたち」では、いくつかの資料を正しく読み取る力と、それらを結びつけて関係を明らかにする力を育てたい。統計グラフを読み取る際は、縦軸、横軸の整理をさせ、的確に資料を読み取れるような指導をし、観察・資料活用の技能の向上を図る。また、まとめる段階では、これからの工業生産について既習事項をもとにまとめ、生かす段階で夢の工業製品を考える学習活動を行う。その際、持続可能な社会をめざすなど、学習の成果が絵や文から読み取るようにする。

4 指導の系統



5 単元の目標

- 日本の工業生産の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、中小工場の働きや運輸の働きが工業生産を支えていることを理解する。
- 日本の工業生産の様子から学習問題を見出し、地図、統計、写真などの資料を活用して調べたことを作品にまとめるとともに、日本の工業生産の現状や特色について考えたことを適切に表現する。

6 単元の評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会事象についての知識・理解
① 日本の工業生産の様子に関心を持ち、中小工場や運輸の働きについて意欲的に調べようとしている。	① 日本の中小工場や運輸の働きの様子について学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ② 日本の工業生産は、中小工場が持つ専門的な高い技術や全国各地のものづくりの伝統、運輸の働きなどに支えられていることを考え、適切に表現している。	① 日本の中小工場や運輸の働きの様子について、統計、写真などの資料を活用して必要な情報を集め、読み取っている。 ② 日本の中小工場や運輸の働きの様子について調べたことを、カルタなどの作品にまとめることができる。	① 日本の中小工場や運輸の働きについて理解している。 ② 日本の工業生産は、中小工場が持つ専門的な高い技術や全国各地のものづくりの伝統、運輸の働きなどに支えられていることを理解している。

7 指導と評価の計画（全5時間）

時間	ねらい	評価規準				【教えること】以下【教】 【考えさせること】以下【考】
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1 (本時)	中小工場や貨物輸送について考え、学習問題を作りましょう。	中小工場や輸送の働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。				【教】中小工場の生産額や仕事の様子、貨物輸送の変化 【考】小単元の学習問題を考え、予想や学習計画を立てる
2	北陸地方には、どのような高い技術があるのでしょうか。				北陸地方など、以前から伝わる技術を大切に、生かしながら生産を盛んに行う工業地域があることを理解している。	【教】北陸工業地帯の広がり 【考】鯖江市のメガネ枠の生産の様子
3	ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。			中小工場が持つ高い技術について各種資料を活用して調べ、読み取っている。		【教】大田区の工業生産の様子 【考】大田区の中小工場が持つ高い技術について
4	生産された工業製品は、どのように運ばれているのでしょうか。				工業製品は、全国各地に広がる様々な交通機関の特徴を生かした運輸の働きによって、工夫して運ばれていることを理解することができる。	【教】輸送手段や物流にたずさわる人々の工夫、交通網の様子 【考】交通網の様子やそれぞれの交通機関の特徴
5	これまでの学習をふり返り、中小工場や運輸の働きについてカルタにまとめましょう。		日本の工業生産は、中小工場が持つ専門的な高い技術や全国各地のものづくりの伝統、運輸の働きなどに支えられていることを考え、話し合っている。			【教】中小工場の様子、運輸の働きをふり返る 【考】カルタにする言葉を選び、読み札の言葉を考えさせる

8 本時の学習（1 / 5）

（1）目標

日本の工業生産額のうち、中小工場が占める割合や貨物輸送の変化について関心を持ち、意欲的に調べようとすることができる。

（2）準備

- ・写真3点、中小工場の占める割合グラフ、貨物輸送の変化グラフ
- ・PC（デジタル教科書）

（3）学習課題

①習得させること

- ・せんい工業や食料品工業は中小工場の生産額が多い。
- ・メガネ枠づくりの写真から、手作業で細かい作業であること。
- ・貨物輸送では自動車が多くなっている。

②予想される児童のつまずき

- ・図表の読み取り方がわからない。
- ・読み取ったことから自分の考えを持つことができない。

③ 深化問題

- ・学習問題を考えさせる。

④予習について

- ・教科書を読み、学習内容の見通しを持つ。

（4）展開

	教師からの説明・課題提示	児童の学習活動	教師の支援（・）と評価（※）
教 え る 10 分	<p>○予習確認をする。</p> <p>1 説明</p> <p>○自動車を作る工業では、中小工場や輸送にたずさわる人々は、どのようなことをしていたでしょうか。</p> <p>○本時のめあてを確認しましょう。</p>	<p>○本時の教科書を読んでわかったところやわからなかったところを確認する。</p> <p>○自動車工業における中小工場の役割や部品の輸送について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み立て工場と関連工場とに分かれていた。 ・国内は主にトラック輸送、国外には船で輸送していた。 <p>○教科書を振り返る。</p>	<p>・日本が多くの品物を輸入していることを想起し、本時のめあてを持たせる。</p>

中小工場や貨物輸送について考え、学習問題を作りましょう。

○グラフの読み取り方を確認する。

○教科書6ページを見て、帯グラフの読み取り方を確認する。

考えさせ
30分

2 理解確認

○グラフから、それぞれの工業の生産額で、大工場・中小工場が占める割合を読み取りましょう。

○中小工場の生産額や仕事の様子、貨物輸送の変化について調べる。

【グラフ①より】

・中小工場の生産額が多いのは繊維工業と食料品工業

【写真2より】

・メガネ枠づくりは手作業。

【写真3より】

・中小工場は小さく古い感じ。

【写真4とグラフ5より】

・自動車の占める割合が多くなっている。
・トラックが多い。

・グラフを読み取って気づいたこと、思ったこと、考えたことを班で共有し、全体に発表させる。
・中小工場では細かな部品を作ることが多く、高い技術を求められることをとらえさせる。
・東京都大田区には高い技術があることを補足する。

○工場で作られた工業製品はどのように運ばれているのでしょうか。

3 理解進化問題

○中小工場や貨物輸送について、学びたいことや疑問に思ったことは何ですか。

○第3小单元「工業生産を支える」の学習問題を考え、予想や学習計画を立てる。

【学習問題】

・どんな中小工場があるのかな。
・中小工場の工夫や努力。
・トラック運転手にインタビューしたい。
・日本の工業は、どのような技術や輸送の働きによって支えられているのでしょうか。

・中小工場や輸送の働きが日本の工業生産において重要な役割を持っていることに気付かせ、学習問題を作らせる。

自己評価
5分

4 自己評価

○これから学習することを確認しましょう。

○振り返りをし、次時の学習の見通しをもつ。

※中小工場や輸送の働きに関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
【関心・意欲・態度】(発言、ノート)